

令和4年度 事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 5年 3月 31日

事業所名 そわら

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		人数や活動に応じてスペースを分ける等の工夫をしている。運動するための十分なスペースを確保している。	-
	②	職員の配置数お適切である	○		1クラス10名に対して、4名のスタッフを配置し、支援に当たるように配慮している。また、保育士、指導員、リハビリスタッフなど多職種による支援を行っている。	-
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		活動の用途によって、使用する部屋を分けている。子どもにとって何をやる場所か分かりやすくなるように配慮している。	構造化や視覚支援の取り組みについて、職員間で勉強会を実施し、より生活しやすい環境を整えるよう努力をしていきたい。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日の清掃、消毒を実施し、清潔にしている。活動に応じてスペースを変えている。	細かなゴミや髪の毛、埃などにも気を配り清潔な環境を整えられるように配慮していきたい。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		療育に関わるスタッフで話し合う場を持ち、意見交換している。計画にそって、目標や支援内容の振り返りを行っている。	有効的に時間を使い、話し合いを行うために、年間の計画を立て、会議を行ってきたい。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○	-	保護者からの意見やアンケートの結果を参考に改善できる部分については努力をしていきたいと考えている。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果をホームページにて公開している。	-
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	-	-	-	-
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		月に1回のペースで定期的に勉強会を開催し、職員研修を行っている。	今後も勉強会を継続し、自己研鑽に励みたい。
適切な	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		アセスメントグループ（プレイ療育グループ）を実施し子どもの観察を踏まえてアセスメントを行っ	言語面・運動面の発達に関して客観的なアセスメントツールを導入した。今後も包括的に発達

支 援 の 提 供					ている。言語面・運動面の発達に関してアセスメントツールを用いて評価を実施している。	評価を行える様で、客観的なアセスメントツールの導入を引き続き検討していきたい。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	一部の児について発達検査、発達評価等を実施している。	全ての子に対して、発達検査や知能検査などを用いて、客観的に評価を行いたい。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている		○	施設内での療育支援に加えて保護者の面談、保護者勉強会を実施している。また、子どもの状態や保護者の意向にあわせて保育所等訪問支援を併用している。	より子どもの発達状況に適した目標を設定できるように、アセスメントを充実させたい。家族支援に関して、保護者会など保護者同士の交流を持てる機会を持ちたいと言った希望が聞かれた。次年度は保護者同士が交流を図れるように計画したい。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている		○	それぞれの子どもの目標や発達の課題を意識し、支援にあたるように努めている。また、毎回の振り返りにて、目標を確認し子どもの様子について話し合いを行っている。	-
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている		○	保育士が中心になって活動プログラムの立案を行っている。活動の目標、狙いをもったプログラムを作成できるように考慮している。リハビリ専門職からの意見を取り入れて、療育プログラムを構成している。	構造化や視覚支援など、発達支援に関する知識を学び、より子ども達が活動に取り組みやすい環境作りに努めていきたいと考えている。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している		○	運動遊びや製作遊び、ルールのある遊びなど、子どもが様々な体験ができるように工夫している。また、季節の行事などを取り入れるようにしている。	年齢や発達段階に応じた課題設定、活動内容の設定をより充実させたい。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している		○	療育活動では、集団での活動が主に実施している。一部のグループでは、集団活動と併行して個別活動を行っている。	令和5年度の6月から新たに年少児のグループにおいて個別活動を開始することを予定している。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		○	保育士がプログラムを立案、作成し、それを元でスタッフ間で共有しているが、話し合うための十分な時間がとれていない。	各スタッフが事前にプログラムに目を通し、自分の役割を意識し、責任をもって取り組む事ができるようにしたい。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	療育終了後にはスタッフで振り返りを行っており、子どもの目標にそって、その日の様子や今後の課題などを確認している。	-
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底		○	子どもの様子、目標に対しての	職員研修を通じて、支援に役

		し、支援の検証・改善につなげている			状態や課題などを記録している。	立つ記録の取り方を学んで行きたいと考えている。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		3か月に1回のモニタリングを実施し、計画の見直しを行っている。	子どもの様子についてスタッフ間で話しあう時間を十分に確保していきたい。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		担当者会議には児童発達支援管理責任者と、アセスメントグループの担当者が出席している。	-
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		○	関係機関からの要請に応じて連携を図っている。	必要な子どもについては、こちらから積極的に関係機関との連携を図ってきたい。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			当施設では実施していません	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			当施設では実施していません	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保育所等が訪問支援を活用し、保育園・幼稚園・子ども園との情報共有や支援の連携を図っている。今年度は訪問支援員を増員した。	訪問支援員を増員し、より綿密な支援・連携に当たれるように情報共有の機会を増やしていきたいと考えている。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○	小学校や特別支援学校(小学部)との連携については、移行期に終業評価を行い、保護者に文書にて報告を行っている。	進学にあたり役立てられるよう資料を作成し、保護者に子どもの発達の様子や必要な支援などの情報を提供したい。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	研修等に参加し、児童発達支援センターや児童発達支援事業所と連携連絡をとっている。	地域の児童発達支援センターや児童発達支援事業所との連絡連携を充実させたい。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある			当施設では実施していません	
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○	十分に参加できていない。	機会があれば、積極的に参加していきたい。
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		保護者が前向きに子どもの発達を受け止められるよう、成長や今後の見通しなどに注目し支援している。保護者から、個別に相談する機会を増やして欲しいといった要望が聞かれた。	家庭での様子、園での様子、地域での様子に着目して、保護者と積極的にコミュニケーションを取りたい。次年度は保護者との面接の機会を増やし、より細やかに相談対応を行える体制を整えていきたいと考えている。
㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保	○		子どもへの対応や、就学などの	保護者の希望などを伺い、二-	

		<p>保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている</p>			<p>情報提供など、月に1回、保護者の勉強会を行っている。ペアレントプログラムを実施した。</p>	<p>ズにあつた情報は供や学習の機会を設けていきたいと考えている。</p>
保護者への説明責任等	③②	<p>運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている</p>	○		<p>利用開始時に重要事項説明書を用いて、運営規程や利用者負担等について説明を行っている。</p>	-
	③③	<p>児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている</p>	○		<p>児童発達支援計画を示しながら支援内容の説明を実施している。保護者の希望や子どもの状態に合わせながら目標と支援を保護者と共有している。</p>	<p>保護者にも分かりやすく記述し、また保護者が何をすればよいのかイメージしやすいように、より具体的に出来る支援を提案していきたい。</p>
	③④	<p>定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている</p>	○		<p>月に1回程度、保護者との面談を行っている。保護者から、個別に相談する機会を増やして欲しいといった要望が聞かれた。</p>	<p>生活場面での課題など、保護者の困り感にそつた相談が行なえるように努めたい。次年度は保護者との面接の機会を増やし、より細やかに相談対応を行える体制を整えていきたいと考えている。</p>
	③⑤	<p>父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している</p>	○		<p>現在、父母の会は実施していない。保護者から保護者同士で交流をもてる機会を増やして欲しいといった要望が聞かれた。</p>	<p>勉強会の中で座談会を実施するなど、保護者同士の交流を図っていきたい。</p>
	③⑥	<p>子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している</p>	○		<p>相談の希望があつた場合や、電話での問い合わせに対応している。</p>	<p>それぞれのスタッフが保護者の相談にタイムリーに対応できるように、子どもの様子を共通理解し、相談に努めたい。</p>
	③⑦	<p>定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している</p>	○		<p>月に1回、通信を発行し、参加者に配布するとともにHP上に公開している。</p>	-
	③⑧	<p>個人情報の取扱いに十分注意している</p>	○		<p>個人情報の取扱いには規定をもうけて、実施している。</p>	-
	③⑨	<p>障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている</p>	○		<p>保護者や子どもにスタッフから積極的に関わり、コミュニケーションをとるように努めている。</p>	<p>保護者が相談しやすい環境作りを心がけて取り組んでいきたい。</p>
	④⑩	<p>事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている</p>	○		<p>感染対策のため、現在は実施していません。</p>	-
	非常時等の対応	④①	<p>緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している</p>	○		<p>マニュアルを作成し、年に2回避難訓練を実施している。</p>
④②		<p>非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている</p>	○		<p>マニュアルを作成し、年に2回避難訓練を実施している。</p>	-
④③		<p>事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等</p>	○		<p>アセスメントにて服薬状況や身</p>	-

	のこどもの状況を確認している			体疾患等の情報を聴取している。	
④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			食事支援を実施していません。	-
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○	ヒヤリハットの記録を作成している。子どもが安全に活動を行えるよう、環境に配慮している。	職員研修を実施し、危機管理や事故怪我防止のための取り組みを職員間で徹底していきたいと考えている。
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		定期的に職員研修を行い、子どもに対する関わり方について学ぶ機会を設けている。	子どもの人権を尊重し、支援に当たれるようにより一層の努力をしていきたい。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○	身体拘束は実施していない。	-

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。